



kenjinkyou TOTTORI

ふれあい

発行所：鳥取県人権教育推進協議会（県人教）

〒680-0846 鳥取市扇町21番地

鳥取県立生涯学習センター 県民ふれあい会館内

TEL：0857(22)0578 / FAX：0857(22)0593

URL：http://torikenjinkyou.sakura.ne.jp/

発行者 岡崎 周治



2022(令和4)年度 第6回鳥取県人権教育実践交流会

2月4日(土)「第6回鳥取県人権教育実践交流会」を県民ふれあい会館で開催しました。(公社)全国人権教育研究協議会副代表理事 福田和博先生に、講演していただきました。

講演の前半は、(公社)全国人権教育研究協議会(以下「全人教」)の紹介と、今課題となっていることや、今後どのように進もうとしているかなどを話していただきました。



特に、全国同和教育研究協議会(以下「全同教」)結成趣意書には「単に差別解消や人権確立にとどまるのではなく、日本の民主主義の根幹にかかわるものである」と述べていること、そして、第1回の研究大会から、同和問題に限定してスタートしているのではなく、あらゆる問題に取り組んでいること、そして、研究大会に係る「実践報告協力者(司会者)」は、研究大会の研究協議の実務的な推進に欠かせない方々で、陰で全人教を支えている重要な役割であること、さらに、昨年開催された奈良大会は、財政面や運営面でコンパクトな大会となり、今後のモデルケースとなることなどをお話していただきました。そして現在、鳥取県で第3回目の開催をめざして、県人教と共に、少しずつ可能性を探っていることも紹介していただきました。

また、全同教は、高校卒業の就職希望生徒に対して、部落差別をはじめとする様々な理由で採用を排除する「社用紙」の使用や不適正選考などの就職差別撤廃を取り組み、その成果として「全国高等学校統一用紙」(以下「統一応募用紙」)が制定されるなど、「統一応募用紙」の制定や改訂に全人教が大きく関与していることも教えていただきました。そして、近年は、「統一応募用紙」から「性別欄」を削除することを求めているそうです。

講演の後半は、福田先生が、長年人権・同和教育に携わり、その中で培われた、人権教育の考え方やものの見方、捉え方などを「人権教育とは」と題して講演していただきました。

まず、(財)鳥取県部落解放研究所の研究員時代に、冊子「部落問題学習資料」を苦心しながら作成されたことや、この冊子に込められた思いを話していただきました。

また、人権・同和教育の根本となる考え方やとらえ方、ものの見方などを、「人権問題学習資料23『人権教育とは何か?』」に掲載されている16の項目を通して、お話をしていただきました。

特に、「差別の現実とは」「教えることは学ぶことが前提である」「今日も机にあの子がいない」「子どもが検証軸である」「社会的立場の自覚」「進路保障は就学前から」などについて、様々なエピソードも含め、私たちが人権教育に取り組んでいくうえで、大切にしていかなければならないことを教えていただきました。そして、私たち一人一人が、人権教育について改めて考えるきっかけになる有意義な交流会となりました。



2022(令和4)年度 市町村人権教育行政担当者会

2月22日(水)、「2022(令和4)年度市町村人権教育行政担当者会」を倉吉体育文化会館で、3年ぶりに対面で開催することができました。

鳥取県教育委員会事務局人権教育課 本庄大志係長様の来賓挨拶の後、日吉津村教育委員会事務局人権教育推進員 梅林智美さんに「日吉津村 実践報告」と題し、人権教育の取組を報告していただきました。



報告は、大きく、公民館事業と連携した「平和展 被ばくピアノコンサート」と、職員研修についての報告でした。まず、平和展の開催では、被爆ピアノや絵本の朗読や、それらに関わる人々の思いや願いを通して、平和の尊さを伝えることができたこと、「企画・運営・実施の場」で、多くの人と繋がり合えたと話されました。また、役場職員を対象にした職員研修では、振り返りや意見交換を重視したそうです。そして、一人ひとりが持っている権利を学ぶことの大切さだけでなく、役場職員として何ができるかを考えたり、職場環境の見直しにつながったりしたこと、さらに、職員の交流を深める良い機会となり、「集うことの心地よさを味わえた」と話されました。

最後に、こまめな取組でいいので、できることを、できるかたちで積み重ねていくことの大切さを伝えていただきました。日吉津村の人権文化が豊かに広がっている様子が見られる報告でした。

実践報告の後、小グループに分かれて、市町村人・同推協等の活動の活性化に向けた情報交換を行いました。特に、「コロナ禍での研修会の開催の工夫」「参加者の年代を広げる取組」「取組の成果の示し方」「喫緊の課題に対する取組」など、それぞれの悩みや今後の課題などが話題になり、有意義な会となりました。

また、「第48回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会(米子大会)」の開催について、様々なご意見をいただきました。ありがとうございました。

NEWS

2022年7月8日公開の映画『破戒』

2月8日(水曜日)から Blue-ray/DVD 発売とレンタル開始

全国水平社創立大会創立100周年を記念して、島崎藤村の「破戒」が60年ぶりに映画化されました。この映画は、昨年7月8日から全国公開されましたが、既に上映が終了しています。(県内では、「MOVIX 日吉津」で公開されていました。)しかし、見逃した皆さんに朗報です。映画『破戒』は、今年2月8日(水)からDVD等の発売と、レンタルが開始されています。

この映画の脚本を手掛けた加藤正人さんは「差別が残る現代にも通じる作品にしたいという思いで書いた」と述べています。そして、前田和男監督は、映画ライターの堀木三紀さんによるインタビューに「強いタブーを打ち破るためにも若い世代に観てほしい。(中略)涙が流れるシーンがあったら、涙の理由を考えてほしい。自分の中の不都合な部分に気がいたら、それは何なのかを考えることで自分と向き合うことができると思います。」と語っています。是非、購入またはレンタルをして、ご覧になってはいかがでしょうか。

◆お詫びと訂正

2023年1月に発行の「県人教だより『ふれあい(第182号)』」において、発行年月日に誤りがございました。お詫び申し上げます。

(誤)第182号 2022(令和5)年1月27日

(正)第182号 2023(令和5)年1月27日

編集後記



本年度は、感染拡大防止策を十分に取しながら、研究集会をはじめ様々な会を参集型で開催することができました。これはひとえに、県人教の活動に関わっていただいている多くの関係者の皆様のご理解とご協力のおかげだと思います。今後も、学校教育及び社会教育等の関係機関・団体と連携しながら、人権尊重社会の実現に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。